

## 第 50 回日本臨床化学会年次学術集会

寺澤 文子\*

第 50 回日本臨床化学会年次学術集会は平成 22 年 9 月 23 日(木)~25 日(土)の 3 日間、集会長に尾崎由基男教授(山梨大学大学院)のもと、山梨県民文化ホールにおいて開催されました。代表実行委員長に本田孝行教授(信州大学医学部)、奥村伸生教授(同保健学科)、事務局長は多田正人先生(山梨大学医学部附属病院)が務められました。学術集会のテーマは「臨床化学の飛躍と医療貢献に向けて」でした。

今回は日本臨床化学会 50 周年特別企画として

「日本における臨床化学の 50 年の歩みとこれからの展望」と題して本学会にゆかりの深い 4 名の先生方のご講演があり、創設当時からの話を懐かしく聞かれた会員も多かったことと思われます。さらに一般演題 79 題をはじめ、特別講演、教育講演 6 題、シンポジウム 4 題などで、ホットな話題から山梨大学、甲府盆地ならではの、ワインや温泉の科学も盛り込まれた素晴らしい内容でした。

以下に主な講演を記します(敬称略)。

<p>特別企画：「日本における臨床化学の 50 年の歩みとこれからの展望」菅野剛史(浜松医科大学名誉教授)、宮井 潔(大阪大学名誉教授)、濱崎直孝(長崎国際大学)、登 勉(三重大学大学院)</p> <p>特別講演：「燃料電池の現状とこれから」東山和寿(山梨大学燃料電池ナノ材料研究センター)</p> <p>教育講演 1：「Epigenetics と臨床化学」久保田健夫(山梨大学大学院)</p> <p>教育講演 2：「腎臓病と臨床化学」和田隆志(金沢大学)</p> <p>教育講演 3：「ワインの成分と流行」奥田 徹(山梨大学ワイン科学研究センター)</p> <p>教育講演 4：「半導体技術と臨床検査の接点を探る」宮原裕二(独立行政法人物質・材料研究機構生体材料センター)</p> <p>教育講演 5：温泉の化学—生きている温泉とは何か」大河内正一(法政大学)</p> <p>教育講演 6：「NF-<math>\kappa</math>B から斬る癌・炎症性疾患・生活習慣病の分子病態解析」北島 勲(富山大学)</p> <p>シンポジウム 1：「臨床検査と医療経済：臨床検査は正当に評価されているか？」</p> <p>シンポジウム 2：「予防医学と臨床検査」</p> <p>シンポジウム 3：「オミックスから派生、具現化したプロダクトの現状と将来展望」</p> <p>シンポジウム 4：「国内・国際の標準化に関する最新の動向」(日本臨床化学会甲信越支部総会との共同開催)</p> <p>ワークショップ 1：「各種疾患と膜トランスポーター・受容体・関連蛋白」</p> <p>ワークショップ 2：「分離分析技術の進歩と継承」(生物試料分析科学会甲信越支部総会との共同開催)</p> <p>プロジェクト報告：専門委員会(クオリティマネジメント、酵素・試薬、血漿蛋白、AACC/NIST Harmonization Forum 準備委員会、機器システム、糖尿病関連指標、POCT、止血・血栓)からの報告</p> <p>ランチョンセミナー5題</p> <p>イブニングセミナー2題</p>
--

\*信州大学医学部 保健学科 fterasa@shinshu-u.ac.jp

また 2010 年学会賞の表彰に続き、受賞講演がありました。

学術賞：「MALDI-TOF MS と特異的酵素定量法による血清リン脂質分子分析法の開発」日高宏哉(信州大学)

技術賞：「 $\mu$ TAS を用いた全自動蛍光免疫測定装置ミュータスワコー i30 システムの開発とその臨床応用」黒澤竜雄ほか(和光純薬)

会員懇親会は学会場近くのロイヤルガーデンホテルにて盛大に催され、ワインの利き酒などで大いに盛り上がり、楽しいひとときを過ごしました。

また学術集會に引き続き、25 日午後から 26 日正午まで、会場を甲府市内のホテル談露館に替えて、夏期セミナーが開催されました。こちらはクオリティマネジメント専門委員会委員の細萱茂実教授(香川保健医療大学)が担当され、テーマは「生命を守るクオリティマネジメント」で、次の内容で活発な討議がなされました。

教育講演 1：「我が国における臨床検査標準化の現状」濱崎直孝(長崎国際大学)

教育講演 2：「日本医師会精度管理調査の意

義」高木 康(昭和大学)

セミナー1：「臨床検査のクオリティとは何か」

セミナー2：「外部精度評価の課題と対策」

セミナー3：「臨床検査データの活用」

ナイトセミナー：「地域が主役の精度保証」

今回も北海道大学、信州大学をはじめ、数大学から大学院生、学部学生の参加、演題発表などがありました。歴史ある学会が若い力を引きつけ、育てていく責任をつくづく感じました。現代はとにかく皆忙しく、ともすれば日頃の仕事に埋没してしまいそうになりますが、他の研究者から発せられる情報に耳を傾け、心地よい刺激に身をさらすことは、なによりあすの活力につながっていくものと思います。

2011 年の第 51 回日本臨床化学会年次学術集會は渡邊直樹教授(札幌医科大学)のもと、平成 23 年 8 月 26 日(金)~28 日(日)に札幌医科大学を会場として開催されます。臨床検査学に携わる多くの教員、学生の皆さんが参加されることを期待しています。